

satokai-farm おれぜんつ☆=

# ジ〜ン (zine) な店 (shop)

プロフィール〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ル



## apartment

一人一人との対話を通じてファッションにまつわる企画制作を行うマガジン。杉田聖司が主宰。

[https://www.instagram.com/apartment\\_magazine/](https://www.instagram.com/apartment_magazine/)

ジ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜ン

・「apartment 004」

インタビュー〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

—「apartment」を始めた経緯は？

もともとファッションが好きで、雑誌でファッション写真を撮っていたんだけど、その時の編集者の人から「1枚のカッコいい写真は撮れるかもしれないけど、ファッションストーリーは撮れてない」と言われたのが印象に残っていて。そこから、写真はあまり撮らなくなっていたけど「ファッションストーリーってなんなのかな」とずっと考えていた。それで考えた結果、自分も毎日服を着ているし、その中でいろいろな心の動きがあるし、出会いもあるし、そういう一つ一つが一番リアルなファッションストーリーなんじゃないかと思った。僕はファッションが好きだけど、「これが今流行っています！」みたいな誰かから提案されるような雑誌やメディアにあまり共感できなくて。だから、街の中にいる人たち一人ひとりの装いをみてみることで、その服と人の関係の中から自分の好きなファッションの側面が見えてくるんじゃないかなと思ったんだよね。それから、実験的に毎日自

分の自撮りとその日見たものや聴いた音楽を記録し始めたのが始まりかな。記録をまとめたZINEをTABFに出店しようと思ったんだけど、恥ずかしくなってやめちゃった（笑）でも面白いから他の人にやってもらいたいと思って、セルフポートレートで作品を撮っている写真家の佐藤麻優子さんにお願いしたのが「apartment」の第1号。

今は7号目まで出ていて、キュレーターとかミュージシャンとか、いろんな人に出てもらっているんだけど、それぞれに共通するのは「なんでこの人はこの服を着るんだろう」という疑問が頭に浮かぶ人。おしゃれな人というよりは、なんか引っかかるな、という感覚に近いかも。1号目の佐藤さんの場合は、会う人によって服のスタイルがガラッと変わる。「装う」ということが人とか社会にすごく結びついていて、それは僕にはない感覚だったのでとても気になった。

### —制作を続けてみて自分自身に変化や発見はあった？

そんなに続くと思ってなかったから、7号目までよく続けたな〜、と思う。でも服と人の関係ってすごく多様だから、7冊だとまだそれぞれの重なりや共通項みたいなものは正直わからない。何年も続けていくことで何か見えてくるものがあるのかもしれないけど。今の段階で分かっているのは、僕が「服と人の関係性」という意味でのファッションがすごく好きなんだなということ。

### —ZINEとSNS、両方で展開しているのはなぜ？

日常的に見てるインスタのストーリー投稿が、自分の中で一番ファッションストーリーだなと思ってから。だから紙面と紐付けて、ゲストの人に実際に「apartment」のインスタアカウントのストーリーをアップしてもらっている。リアルタイムの投稿（現実）と、その投稿を切り取って紙面に載せた状態（虚構）の間の中で幅が生まれていくのが面白くて、それを読んでも人にも感じてもらえたら嬉しいな。

逆になぜ紙の本も作っているのかというと、ものとして情報に触れることにも価値があるなと思ってから。上の世代の人が言う価値とはまた違うかもしれないけど、情報をオンライン上で共有することが当たり前の僕たちの世代にとって、本を所有することは情報との新しい触れ方の一つになっていると思う。そういえば最近、「apartment」がメルカリに出品されてて！それがめっちゃ嬉しかった。もちろん本をつくることで引き起こされる環境問題などにも向き合わないといけないけど、ものとして受け継がれて、自分の知らないところで巡っていくことは形があるからこそだと思う。

